

昭和 36 年を迎えて

岡山県畜産の展望

明けましておめでとうございます

ここ 1、2 年、農業の問題については各方面で論議され、農業は曲り角に来たとか転換期に立たされていると云われますが、そうした論議の中で必ず取上げられているのが畜産の問題で、最近では政治談議にも牛乳 3 合論が飛び出すほどで、確かに一般にも畜産の重要性が認識され、畜産振興が強く要望されるようになりました。そして去年は特にこうした傾向が強くなってきたように思われます。

ところで本県の畜産も、昨年 1 年間有畜農家の皆さん方の非常な御努力によりまして、順調な発展を示しました。特にその発展の形におきましては、従来のように唯単に家畜の頭数や畜産物の増加と云うことのみでなく、畜産物流通機構の近代化、或いは畜産経営の規模の拡大、資金の活用など、云わば畜産の基盤となるような部面が非常に伸びてきたことが特筆されると思います。一部では従来の副業的な形の畜産から、畜産を主体とした農業へ、進んでは効率的な専業畜産へと飛躍して行く兆をみせています。将来もこのような傾向が強くなってくると思いますし、特に今後農業自立経営という面から畜産振興がより強くとりあげられなければならないと思われれます。

今後畜産を大きく伸展させるためには、畜産技術の向上も必要であります。特に、組織を強化すること、畜産に対する金融制度を確立すること。畜産物の販売流通機構を整備することが重要であると考えられます。

最近農協合併も進んでおりますし、こうした農協は、畜産部の新設、畜産技術員の配置など、いわゆる畜産指導体制が次第に確立強化されていることは非常によろこばしいことでありまして、そうしたことを基盤に、本年は更に飛躍的な畜産の年といたしたいものであります。

ここに、去年の畜産の実績を振りかえり、また新しい年の躍進する「畜産岡山の展望」ということで、それぞれの部門別に畜産課担当メンバーに概要を述べていただくことにしました。